

二俣尾・武蔵野市民の森事業

活動を行う団体

山林所有者、公益財団法人東京都農林水産振興財団、武蔵野市

活動の実施場所

二俣尾・武蔵野市民の森（東京都青梅市）

活動の概要

近年、ニホンジカの増加による食害や森林の手入れ不足により、多摩の森林の荒廃が進んでいます。武蔵野市では、「森林の荒廃は、山側だけの問題ではなく、森林の恵みを受けている都市住民においても認識を深め関心を高めていく必要がある」という考えから、森林保全とともに森林を活用していくため、2001年8月に青梅市二俣尾の山林の一部を利用して「二俣尾・武蔵野市民の森」を開設しました。

ここでの事業は、山林所有者、山林の保全管理を行う公益財団法人東京都農林水産振興財団、武蔵野市の三者で締結した協定に基づき、それぞれの役割に応じて分担しながら実施しています。運営にあたっては、行政関係者だけでなく、山林所有者などで構成する『エンジョイ・フォレスト女性林研』や自然観察の市民団体から発足した『NPO法人 むさしの自然塾』などが関わることで、参加者が楽しめるプログラムをご提供しています。



森の市民講座 どんぐり細工の様子

2006年7月には、自然体験学習や地元地域住民との交流の場として自然体験館を開館しました。ここでは、多摩の森林の現状や役割などの話を聞き、草木染めやクリスマスリース作りなど季節に合わせた様々な体験ができる「森の市民講座」を年5回実施しており、「森を守ることの大変さ」「森を作り上げることの大変さ」を感じたとの感想が寄せられています。その他、自然観察会や、小中学生を対象に林業体験などができる生涯学習プログラムなどを実施しています。



森の市民講座 間伐体験の様子



森の市民講座 クリスマスリース作りの様子